

ISSN 1346-4655

弘前学院大学社会福祉学部研究紀要

第 15 号

弘前学院大学社会福祉学部

2015年 3 月

弘前学院大学社会福祉学部研究紀要

第 15 号

弘前学院大学社会福祉学部

2015年3月

執筆者紹介（掲載順）

石	田	和	男	教	授	社 会 福 祉 学 部	哲	学
大	野	拓	哉	教	授	社 会 福 祉 学 部	憲	法 学
小	川	幸	裕	准	教 授	社 会 福 祉 学 部	ソ	ーシャルワーク
斎	藤		繁	教	授	社 会 福 祉 学 部	心	理 学
高	橋	和	幸	准	教 授	社 会 福 祉 学 部	社	会 福 祉
柘	植	秀	通	講	師	社 会 福 祉 学 部	社	会福祉の歴史(英国)

目 次

論 説

ダニの感覚器官と環世界 (Unwelt)	石 田 和 男 (1)
社会資源としての住民組織 ——2005年4月26日の最高裁判決を手がかりにして——	大 野 拓 哉 (9)
独立型社会福祉士における活動領域と ソーシャルイノベーションの可能性	小 川 幸 裕 (21)
映像的形象コミュニケーションについての一考察	齋 藤 繁 (30)
除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの 構築に関する研究 (その6) ～山形県尾花沢市共助の地域除雪として行われる 各取組が継続している要因とその発展を支える 除雪ボランティアセンターの連絡調整機能の充実化を例に～	高 橋 和 幸 (42)
英国慈善学校の組織化特性に関する研究 (その3) 慈善学校における規約	柘 植 秀 通 (62)

弘前学院大学社会福祉学研究紀要投稿規程

第1条（目的と名称）

弘前学院大学社会福祉学部は、本学部教員の学術研究の奨励及びその成果発表のために、学術雑誌を定期的に刊行する。

- 2 前項の学術雑誌は『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』（以下、「紀要」という。）と称する。

第2条（発行と二次利用）

本紀要の発行は、各年度1回とする。

- 2 本紀要に掲載された内容については、学内及び学外の指定機関に於いて、電子化して二次利用できるものとする。学外の指定機関については、本学部教授会の議を経て、これを決定する。

第3条（紀要編集委員会）

本紀要の編集及び発行のために、本学部に紀要編集委員会（以下、「編集委員会」という。）を置く。

- 2 編集委員は、本学部教授会で選出された5名の編集委員を以て構成する。
- 3 編集委員会は、互選によって委員長を選出する。
- 4 編集委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。

第4条（投稿資格）

本紀要への投稿資格を有するものは次の通りとする。

- 一、本学部専任教員（共著の場合には筆頭者であることを要する。）
- 二、本学部非常勤講師および本学他学部教員で編集委員会の承認を得た者。

第5条（掲載項目）

本紀要に掲載する研究業績は未発表のものとし、原則として次の二種類とする。

- 一、論説（article）
- 二、研究ノート（interim research report）

第6条（掲載手続）

本紀要に掲載する研究業績は、別に定めるところに従って、本規定第4条に該当する者よりこれを公募する。

第7条（学術審査）

編集委員会は、提出された研究業績の専門分野に応じて、学内の教員の中から査読者（複数）を選定し、審査を依頼する。但し、学内に適当な査読者のないときには、学外者を以てその任に当たらせることができる。

- 2 学術審査の結果は、次の通りとする。

- 一、採用 掲載を可とする。
- 二、保留 査読者の意見を付し著者に加除修正等を求める。この場合には、原稿の再提出をうけて再度学術審査を行った上で、掲載の可否を決する。
- 三、不採用 掲載を不可とする。この場合には、不可とする理由を付さなければならない。

- 3 編集委員会は、前項各号のいずれにおいても、著者に対して、書面を以て、学術審査の結果を伝達しなければならない。

- 4 編集委員会は、学術審査の結果に基づいて、掲載の可否を決定する。

第8条（改正）

本規定の改正は本学部教授会の議を経なければならない。

付 則 本規定は2004年12月1日から施行する。

編集委員長 大野拓哉
編集委員 小川幸裕
西東克介
藤岡真之
松本郁代

ISSN 1346-4655

弘前学院大学 社会福祉学部研究紀要 第15号

2015年3月11日 印刷

2015年3月15日 発行

編集者 社会福祉学部研究紀要編集委員会
弘前市稔町13の1 (電話 0172-34-5211)
発行所 弘前学院大学
社会福祉学部
印刷所 有限会社小野印刷所
弘前市富田町52 (電話 0172-32-7471)

Bulletin

of

Faculty of Social Work, Hirosaki Gakuin University

Vol. 15

CONTENTS

Articles

- L'organe sensible et l' Umwelt chez des tigues..... Kazuo ISHIDA (1)
- Neighborhood Association as a Social Resource Takuya OHNO (9)
- The Practices of Independent Social Workers
and The Possibility of Social Innovation Yukihiro OGAWA (21)
- A Consideration of Communication by Iconic Representation
..... Shigeru SAITOH (30)
- Investigation concerning the Construction of Cooperative,
Interdependent Communities through Volunteer Activities
of Snow Removal (Part6)
— Examining the main reason why various regional
volunteer groups in Obanazawa City, Yamagata Prefecture,
have been able to continue their cooperative activities of snow
removal, and the improving functions of contact and
coordination that “Snow-Removal Volunteer Center” has
fulfilled in order to sustain the development of the groups’
activities
..... Kazuyuki TAKAHASHI (42)
- The Research on the Organizational Characteristics
in the British Charity Schools. Part 3
The Rules and Orders in Charity Schools. Hidemiti TSUGE (62)

PUBLISHED BY
HIROSAKI GAKUIN UNIVERSITY
HIROSAKI, JAPAN
MARCH 2015